

なぜ

# 検察官は有罪を 求め続けるのか？

## 「ナリ検」から読み解く 検察官の本音と思考

お話

元検察官

市川寛さん

9/19<sup>土</sup> 14時～

ライブ

[https://youtu.be/ukq\\_0F-HyP0](https://youtu.be/ukq_0F-HyP0)

スマホ・タブレット  
こちらからどうぞ→



検察官にとって、無罪判決は敗北を、再審開始は屈辱を意味するのでしょうか。誤りを正すより隠すことを選び、真実の究明より有罪に固執するのはなぜでしょうか。

検察という組織がどんな思考プロセスを経て意思決定しているのか、元検事の市川寛弁護士に聞きます。

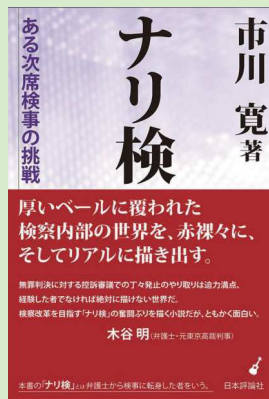
(インタビュアー：甲南大学教授・笹倉香奈さん)

### ナリ検

ある次席検事の挑戦  
市川寛 著

無罪判決に関する検察の控訴審議はボールに包まれている。元検察官の著者が弁護士出身の検察官（ナリ検）を主人公にその実態を赤裸々に描く。法曹関係者必読のフィクション小説。

(日本評論社 WEB より引用)



日本評論社  
税込み 1,870 円